

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1291000105		
法人名	株式会社 ケアサービス・まきの実		
事業所名	グループホーム 相浜ガーデン		
所在地	千葉県館山市相浜75-1		
自己評価作成日	平成28年2月7日	評価結果市町村受理日	平成28年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成28年3月16日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の生活リズムの中で”その人らしさ”を尊重した関わりに努めている。</li> <li>・地域密着型として地域との繋がりを強化。行事、防災訓練において参加を促し協力を得ている。</li> <li>・四季に通じた行事を実践している。また、各行事を実施後には弊社ホームページを通じご家族様に楽しんで頂いている。</li> <li>・事業所内の菜園では四季の野菜を栽培。入居者様にも水やり、収穫を担って頂き生活感を感じて頂いている。</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>相浜漁港近くの人情味豊かな地域に4年前に設立された新しいホームである。設立以来ホーム長のリーダーシップの下で地域との連携を大切にしながら、職員が常に自ら考えてより良い介護を目標に、様々な取り組みを行っている。職員は生き生きと主体性を持って支援に努めており明るいホーム運営で家族の評価も高い。また、最新の情報機器やソフトを上手に活用して、質の高いサービスを効率的に提供するとともに、家族や地域にもタイムリーに情報を発信し相互理解に努めている。ユニットごとに調理担当職員による家庭的な食事が提供されており、味付けもよく入居者は穏やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいる。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各階事務所内に経営理念、目標等を掲示し日々黙読をしている。マンダラートを実践し目標を具体化させた取り組みを行った。	事務所に法人の理念・目標とともに、ホーム並びに各ユニットの年度目標を掲示している。発想法の一つであるマンダラートを活用して目標実践のための課題を職員間で考え、共有する等積極的な取り組みが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板の受け渡し、また事業所行事の際は近隣住民への参加を投げかける事で顔なじみの関係が生まれている。また、地域貢献として防犯対策の為夜勤近隣ヘライト照射し好評を得ている。	ホームは相浜の漁港近くの集落にあり、買い物はじめ日常生活の中での近隣との付き合いを大切にしている。運営推進会議や防災訓練、納涼祭等の行事に地域の方に参加頂くとともに、地域貢献にも積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の区長、民生委員に事例を通じ対応方法を伝えられている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度の定期開催を実施。出席者から関連な意見を頂くことができている。	市高齢者福祉課、地域包括、相浜地区区長、副区長、民生委員、家族代表などの出席を得て2か月に1度開催している。家族会でのスライドショーの様子を紹介する等して理解を深めるとともに、介護福祉についての情報共有の場ともなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	密な連絡は互いに乏しいが、信頼関係を構築し各種相談、連絡できる体制を今後も意識していく。	地域包括支援センターなのはなは、ホームの法人が市から受託運営しており、密接に連携している。市高齢者福祉課からは運営推進会議に参加頂く機会を通じて、ホームの理解が得られるように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常の玄関施錠はなし。外出したい、という理由、想いを尊重し、止めない介護に努めている。	毎月定例会議で注意を喚起するとともに、法人本部から送付される事例集で確認しあっている。日中玄関は施錠せず、全室低床ベッドの採用や、必要に応じてのセンサーの採用等により拘束しない介護を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティングに於いて都度注意喚起、啓蒙を実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は研修に参加することができなかった。成年後見制度等直面する可能性がある事案について知識不足を痛感している。次年度に活かしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には質問がその場で出来ないケースがある為契約後においても、些細なことでも良いので問い合わせ頂くよう伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会後に親睦会を実施。参加者全員より声(意見)を頂戴し適宜回答をしている。	運営推進会議には毎回輪番で家族の参加を得るとともに、年2回ホームのイベントの後に家族の懇談会を開催し家族の声を伺える機会を作っている。家族との協力関係ができており、今回のアンケートにもほとんどの家族から回答得た。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一度職場環境アンケートを社内全体で実施。アンケート結果をもとに改善に向けて取り組んでいる。	毎年職員アンケートを実施し、結果を踏まえて改善に繋げている。今回の利用者アンケートでも全家族から職員は生き生きと働いているとの評価を得ており、職員は主体的に活動している様子が窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施。面接を通じ主任、管理者からの評価をもとに更なるスキルアップへ繋がるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	権限移譲を推進し各自のスキルアップ、やりがいを伸ばすことを目指している。上席者は見守り、事の進捗を把握する関わりをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症メモリーウォークに参加し同業他社との関係づくりに努めた。その関係づくりはまだまだ不足していると感じている為今後も課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護記録を密に残す取り組み、関わりを多く持つ姿勢を共有し、入居者様との関係性を構築できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	些細なことから情報発信をする事に努めている。その中でご家族様からの要望、希望を聞き出すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先順位、緊急度を踏まえ入居者様に何が必要かを常に念頭に置いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が日々行っている家事(炊事、洗濯、掃除等)を入居者様と共に実施している。申し訳ない、という気持ちより、ありがとう、という気持ちで接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の対応で苦慮しているケースはご家族様にも報告し相談に乗ってもらう。共に支援して頂く姿勢を継続している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から受診している他科においてもご家族様の要望を踏まえ受診を継続している。病院先では顔なじみの関係が維持できている。	近隣の入居者も多く馴染みの床屋さんに来所願ったり、買い物、通院などで関係継続に努めている。家族や友人の面会も多い。年2回の家族会ではスライドショーで日常の本人の様子を紹介する等して好評で、毎回半数以上の家族の参加がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の席配置を始め各取り組みを通じ入居者様同士の関係性を考慮するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居後においても本人と会う事があれば会話を通じ状態把握に努めている。その情報を現在のサービス提供者に報告している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを通じ本人主体の関わりをもつよう努めている。また、ケアプランの内容は介護システムを通じ洩れなく実施できるよう設定をしている。	会話のできる利用者は職員が日常生活の中で、希望等を確認している。困難な場合は独自の24時間シートを活用し、関係職員は気付いた事を記入して、それを基に話し合い、本人の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを適宜更新し入居者様のこれまでの生活を尊重する思考、対応を心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存機能の活用を念頭に日々の関わりにおいて介護記録を活用し共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを通じケアプランの適宜加筆修正を行っている。	職員は利用者の要望や日々の状況をiPad等の端末から都度、専用介護支援ソフトに入力し、多面的かつ時系列的に介護記録が把握できるようになっている。モニタリングは3ヶ月毎に実施し、これらを踏まえてカンファレンスを行い、介護計画の作成、見直しを行っている。	今年2月に法人の人事異動で介護支援専門員が系列のグループホームから転属し就任した。交代に対する家族の不安も一部にあるようで、早期に利用者・家族との信頼関係作りを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を基に日々各ユニットで申し送りを実施している。その中で異変、変化があった際は試行錯誤を繰り返して記録入力をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	型にはまらない介護、が重要と考える。入居者様のその時の希望を汲み取り柔軟に関わりを持つよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ヤクルト販売員とのやりとりを通じ自身の好きな飲料を選んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の診察を訪問診察として2週間に一度受けている。その他24時間体調異変時には看護師を通じ適切な指示を得る事が出来ている。	母体の赤門整形外科内科の理事長が認知症専門医であり、毎月2回、先生と看護師の往診がある。24時間対応で適切な医療が受けられる為、全利用者はホームのドクターをかかりつけ医としている。眼科等は家族の希望があれば職員が受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調不良については24時間365日看護師からの指示が得られるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携している病院とは密に情報の共有が実践出来ている。退院前から情報交換が可能の為退院時の対応がスムーズである。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度は終末期に該当する事例がなかった。適宜主治医との日程調整をしご家族様に状況報告を実施し意向を確認している。	入居時に重度化や終末期に向けて、利用者・家族へ、当ホームでできることを十分に説明し方針を共有している。また、終末期には医師と連携して家族と話し合いを重ね、意向を確認しながら取り組む体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置について研修を受けた職員が自事業所にて情報共有を実施した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定められている総合防災訓練に加え、発電機の作動方法等全職員が対応できるよう訓練をしている。	年間計画に沿って毎月日にちを決めて、防災に関する設備・備品・マニュアルの点検や整備、防災会議、訓練などを行っている。消防署立ち合いの総合防災訓練は年2回実施して万全を期している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間の申し送りについては入居者様の前で行わないよう指導。	利用者と目線を合わせ、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに心がけ、本人の思いに寄り添った支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ある程度の生活リズムは必要と考えるが都度の判断はあくまでも入居者様の意志の元と考える。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の生活リズムは必要と考えるが都度の判断はあくまでも入居者様の意志の元と考える。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院に行ってパーマをかける女性入居者様あり。 男性入居者様は毎日の髭剃り実施。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー決めについても入居者様の意向を尊重している。また配膳、下膳についても入居者様と共に実践。	ユニット毎に調理担当の職員が食材購入と毎日の献立を考え、家庭的な美味しい食事を提供している。利用者はホーム内の畑から野菜を取ってきたり、メニューを考えたり等、できる範囲で職員と一緒にいき、時にはおやつ作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様個々の嗜好を尊重。その中で日々の摂取量を鑑みて適切にフォローできるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	都度の口腔ケア実施。その他必要に応じて訪問歯科を適用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ADL維持に向けた取り組みを推奨。一度、二度の失敗で安易にADL、QOLを下げない様都度指導をしている。重要なのはなぜ失敗したのか、を追及する事。	ユニット毎に職員は全利用者の排泄パターンを把握する事に努めており、日中は介助の必要な方を時間帯や仕草等から誘導することで、ほぼ全員がトイレでの排泄を行っている。夜間は状態に応じてポータブルトイレ使用の方や見守りでトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事で食物繊維を取り入れる事。また健康飲料のアロニアが必要な方はご家族の同意を得て適用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定は存在するもその時のタイミングを尊重し対応。入浴を希望されない傾向にある方は手浴、足浴、清拭から対応している。	日中はいつでも入浴ができる。一日に3~4人の入浴支援を行い、一人週2回の入浴を基本としている。入浴を拒む方は無理せず足浴等からゆっくり支援している。入居前からの習慣で、好みの入浴剤を使用して楽しむ利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠の為に昼間の活動を意識している。が、昼間の休息も重要である為バランスに留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員に内服セットを委ねている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	夕飯前の晩酌が習慣となっている入居者様には酎ハイを提供していた。が、夕飯後の転倒事象を機にノンアルコールタイプへ変更した。その後もお酒として楽しく飲用している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ等の支援に努めているも不足していると感じている。	各利用者の身体状態を観察しながら、天気が良く温かい日に、個々に海岸付近を散歩に行ったり、裁縫の好きな方は材料購入等に出かけている。1~2ヶ月に1度は社用車で数名ずつ、初詣、季節の花見等のドライブに出かけるよう心がけている。	自己評価で意識しておられる通り、アンケートでも当項目はやや低い満足度となっている。引き続き努力をお願いしたい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に固執する方には肌身離さず持てるよう支援し、その支援を得て安心をしている様子あり。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特定の方と文通をしている。昨年末には行事として年賀状を作成し投函した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適度に館内装飾を実施し季節感を味わって頂いている。	居間は職員手作りの日めくりカレンダーやドライフラワー等、季節に合わせ装飾をしている。手作りボードには利用者と保育園児が芋掘りを楽しんでいる写真等を掲示している。できる方は職員と一緒にモップかけや洗濯干し等を行い、共用の空間は清掃されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	要所にソファを配置することで個々の好きな居場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとって必要な物品は積極的に搬入して頂くようご家族様に説明し協力を得ている。	家族と相談しながら好みの家具・小物や加湿器等を設置している。入居前から布団生活の方はベットを使わず、自ら毎日布団の上げ下ろしを行い整理整頓している。自作の人形を大切にしている方もおり、個々に居心地よく過ごしている様子が窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	在宅と同様の生活環境を念頭にベッドを使用せず布団を自身にて敷いている方も数名いる。できる事と出来ないことを見極めている。		